

光と緑の風通信

発行/2023年3月14日 編集/福島県立医科大学看護学部 〒960-1295 福島市光が丘1番地 Tel.024-547-1111 (代)

夢を語る

大学院看護学研究科 研究科長 高橋 香子



先日、昆虫学者の前野ウルド浩太郎氏の著作『バッタを倒しにアフリカへ』という本を読みました。前野氏は幼少期に読んだ『ファール昆虫記』に感銘を受け、昆虫学者として生きることが望んで博士号を取得されたにもかかわらず、ポスト不足の就職難で、一発逆転の生き残りをかけて砂漠の国、西アフリカのモーリタニアの研究所に単身渡ります。そこからが苦難の連続。60年に一度の大干ばつでモーリタニアからバッタが消える、飼育用ケージが潮風で朽ち果てる、猛毒のあるサソリに刺される、などなど。バッタアレルギーになっても立ち向かい、「バッタに食べられたい」「バッタから世界を救う」というバッタへの深い深い関心と情熱をもってしても挫けそうになる時、転機が訪れ、功を奏するようになります。その最大のポイントは、「夢を語る」こと。「夢を語るのは恥ずかしいけど、夢を周りに打ち明けると、思わぬ形で助けてもらえたりして流れがいい方向に向かっていく気がする。夢を叶える最大の秘訣は夢を語ることだったのかなと、今気づく」と。

卒業生、修了生の皆さん、皆さんの夢は何ですか。大学での学習も、大学院での研究活動も、皆さんの夢を叶える過程の一部です。看護という道程に立ち、看護職者として、あるいは教育・研究者として事をなそうとするときに、何のためにそうしたいのかをじっくり考え、夢を語ることを忘れないでください。皆さんの今後のご活躍を期待しています。

(前野ウルド浩太郎「バッタを倒しにアフリカへ」光文社新書、一部引用)

(たかはし こうこ)

学生生活委員会「学年担当教員制度」開始

令和4年8月3日に開催された
学生生活委員会主催の
第1回就職支援セミナーの様子

学生生活委員会 黒田 るみ

学生生活委員会では、令和4年4月から、学部の学生さん方を対象とした「学年担当教員制度」を開始しました。役割は、①大学生生活全般に関する相談窓口、②就職支援、です。令和6年3月末まで、以下の教員(所属)が担当します。

- 【1年生】三澤文紀(総合科学)、黒田るみ(基礎看護学)
- 【2年生】後藤あや(総合科学)、川島理恵(基礎看護学)、森美由紀(母性看護・助産学)
- 【3年生】片桐和子(成人看護学)、佐藤利憲(精神看護学)、吾妻陽子(精神看護学)
- 【4年生】統合実習担当教員33名
- 【看護学学生部長】太田昌一郎(生命科学)、
- 【教務委員長】和田久美子(小児看護学)



学生の皆さん、誰に相談したらよいかわからない、このことを大学に相談してよいかどうかともわからない、と一人で思い悩んでいらっしゃいませんか？どうぞ、一度、お声かけください。学生の皆さん方が実り豊かな学生生活を送ることができますよう、担当教員一同、願っております。

(くろだ るみ)

学生生活紹介



入学から一年で学んだこと

看護学部1年 山下 遥香



入学してから、1年が経とうとしています。私は、この1年間で、看護学生として、様々なことを学んできました。まず、授業では、看護の基本的な技術や知識を得ながら、あらゆる角度から物事をアプローチ出来るように懸命に取り組みました。そして、専門性のある学習をしていくにつれて、将来、一医療人として看護をするということに自覚を持つようになっていき、より一層、精進するようになりました。また、レポートや授業の課題の提出や、

定期テストの勉強などに追われる日々は初めは慣れませんでした。時間が足りず、自分の考えを上手くまとめることができないうまま、次の授業を迎えることもありました。しかし、段々、自分の中で生活のルーティンが確立していききました。そして、時間が確保できるようになり、課題やテスト勉強に満足していくまで、精一杯取り組めるようになりました。

2年生では、より専門的に看護学を学んでいくことになりました。これから、大変な日々が待ち受けているかもしれませんが、まずは1年間走り抜けた自分を褒め、努力を怠らず、成長し続けたいと思います。(やました はるか)

学生生活について

看護学部2年 蛭田 芽唯



学生生活について振り返りたいと思います。私は福島県の地域で働く看護職に

関心があり勉強をしたいと考え、入学しました。授業では学びたいことが学べているという充実感が得られ、看護の可能性を実感しています。友人とは積極的に意見を交わし、学び合い成長できています。実習施設の方々は感染対策に取り組みされる中で学生を受け入れて下さいます。(ひるた めい)

実習を通しての学び

看護学部3年 渡邊 明日香



私は、今回領域別実習で様々な患者さんと出会いました。その出会いを通して学んだことは、

丁寧な関わり、一緒に歩む姿勢、自分を客観視することです。まず、丁寧な関わりは、対象との関わり

そのものを大切にするということです。話を丁寧に聞くことで、何気ない会話の中にもその人の強みや、不安などのその人らしさが沢山隠れていることに気づくことができました。一緒に歩む姿勢は、関わりの中で見えて

4年間を振り返って

看護学部4年 阿部 愛海



大きな期待と夢、少しの不安を抱きつつ大学に入学してからの日々が、今、振り返ると、授業や実習、部活動、アルバイトとともに濃く充実した日々を送れていたのではないかと思います。初めての实習では右も左も分からず緊張したものですが、同じ夢を持った仲間たちと切磋琢磨しながら多くの実習を乗り越えたの

卒業を迎えようとしています。この4年間を振り返ると、授業や実習、部活動、アルバイトとともに濃く充実した日々を送っていたのではないかと思います。初めての实習では右も左も分からず緊張したものですが、同じ夢を持った仲間たちと切磋琢磨しながら多くの実習を乗り越えたの

大学院はイイゾウ

大学院博士前期課程 佐藤 健斗

この度、「器械出し看護」について綴ったエッセイを、最優秀賞という形で評価していただけたこと、大変嬉しく思います。このエッセイには、手術室での経験や先輩方の教えはもちろんですが、特に大学院での学びが影響しています。きつと、臨床にいたるだけでは表現できなかったでしょう。

手術室の皆様に加え、「看護」に向き合う場を提供し、気づきを与えてくださった大学院の先生方と同期の方々、全員に感謝申し上げます。

(さとう けんた)



※佐藤さんが最優秀賞を受賞した日本手術看護学会「手術看護の日」制定記念エッセイは次のURLからご覧いただけます。是非、ご覧ください。 https://www.jona.gr.jp/common/jyusyo_kango.pdf

部活動・サークル紹介

最近のZACCの活動状況について

看護学部3年 平賀 麻莉

こんにちは、ストリートダンスサークルZACCです。ZACCは総勢70人以上のサークルです。ほとんどが初心者ですが、経験者から教えてもらったり、ワークショップに参加したりと、部員それぞれが、様々なジャンルでスキルアップのために頑張っています。サークル活動としては日々の練習や、講堂ライブ・学祭などの学内イベントを中心にしています。コロナ禍で様々な制限がありますが、活動に参加できる時には楽しく、時には真剣に練習に取り組んでいます。また、サークル員の中には、スキルアップのため、サークル活動だけでなく、ダンススクールに通ったり、練習会を開いたりなど工夫して、踊る機会を増やし練習している人もいます。

今年の3月には外部イベントへの参加も予定しています。コロナ禍で外部での発表ができていなかったのですが、学外の人たちにも私たちのダンスを見ていただけたことを、とても楽しみにしています。是非その際は見に来ていただけると嬉しいです。

(ひらか まり)



裏千家茶道部の活動

看護学部3年 大平 恭子



裏千家茶道部は現在、医学部、看護学部、保健科学部の部員74名で活動しています。活動場所は、8号館1階の実習室にある

和室の部屋です。活動は主に月に2回で、茶道の先生をお招きしてお茶点の練習やふくさの使い方などを皆で学んでいます。当部は大学から茶道を始めた方が半分以上ですが、先生がお茶を飲む作法、歩き方などの基本的なお点前を丁寧に教えて

くださるので、未経験者でもすぐにお茶を楽しむことができます。落ち着いた空間でお点前をし、お茶をゆつくりといただくことで心も体もリラックスできてストレス解消にもなります。自分で点てたお茶の味は格別です。また、先輩後輩、学部関係なくフレンドリーな雰囲気当部の魅力でもあります。コロナ禍で活動が制限されてしまうこともありましたが、感染対策をしながら他学部や他学年の方々とお茶やお菓子を楽しむことで交流を深めることができています。

(おおひら きょうこ)



【成人看護学領域】

成人期の患者さんとその家族の健康と生活の質の向上を目指し、生命の危機状態や手術など侵襲の高い状態の人に対する「急性期看護」と中長期的な疾病を抱える人に対する「慢性期看護」を軸に幅広く看護を探求しています。



佐藤 菜保子

看護について学生さんと語り合う時間が楽しく、教員になって良かったなあと思います。



佐藤 富美子

がん患者のQOLを促進するケアの開発、がん治療期看護の質評価指標の開発が研究テーマです。



片桐 和子

周術期看護、化学療法や造血幹細胞移植に関する看護の研究に関心があります。



菅野 久美

クリティカルケア・がん看護に関する研究をしています。ときどきチェロも弾いています〜♪



井上 水絵

2年連続、年越しキャンプをしました。婦人科がん患者さんのQOLの研究をしています。



横山 郁美

関心のある分野は終末期看護、緩和ケア。ただいま子育て奮闘中。



【老年看護学領域】

老年看護学領域では、疾患や加齢に伴う高齢者特有の健康障害があったとしても、高齢者が住み慣れた場所で生活し続けることを支える看護について、教育・研究を行っています。



坂本 祐子

自分が高齢者になり健康・生活障害を携えた時“こう支えて欲しい”を念頭に看護を探求しています。



齋藤 史子

高齢者が望まれる在宅療養生活を支える外来看護について研究しております。



佐々木 千佳

高齢者の「持つ力」に目を向け、活かせる様に看護を考えています。



杉本 幸子

地域包括ケアにおける看護職の役割や多職種連携について探究しています。



阿部 久美

高齢者に寄り添い、安心してもらえるような看護をモットーとして学生に教育しています。

◆ 編集委員
編集長 鈴木 学爾
井上 水絵
佐々木 千佳
佐藤 利憲
関亦 明子

看護学部 ニュースレター「光と緑の風通信」では今後も、学生と教員の様子をお伝えしてまいります。
編集長 鈴木 学爾

そして、このニュースレターが発行される頃、看護学部の22期生が卒業します。卒業生の多くが看護の現場で働きますが、SDGsやダイバーシティが求められるなど世の中が大きく変化する現在です。看護の対象となる人、家族、集団、地域、社会の在り方が大きく変化しています。卒業生の皆さんには、対象となる相手をしっかり捉え、既知の方法だけではなく新たな方法で必要な看護を提供できる看護職になってもらいたいと思います。

今年度からリニューアルした看護学部ニュースレターの「光と緑の風通信 Vol.64号」はいかがでしたでしょうか？Vol.64号と言う長い歴史がある中で、電子版を中心とし、完全カラー化とスマホなどでも見やすいレイアウトなど世の中の変化に合わせて、大幅なりリニューアルを行いました。

編集後記